

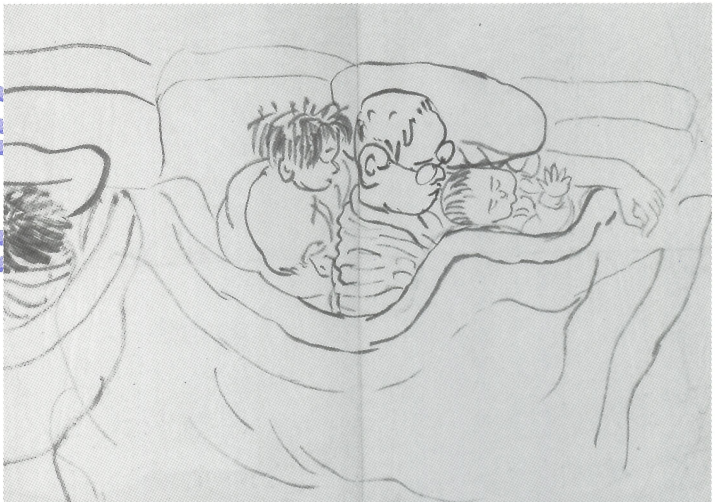
もっと知りたい

武者小路実篤

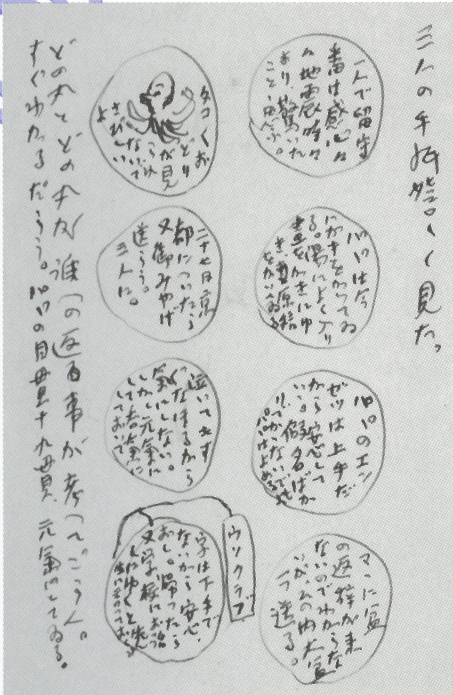
実篤と家族 2

武者小路実篤は安子さんと結婚して、三人の女の子のお父さんになりました。

実篤は、威厳のある父親、ではなくて、子どもといっしょに遊ぶ楽しいパパでした。一家はおたがいによく話し、遠くにいるときも手紙を出し合う、とても仲のいい家族でした。



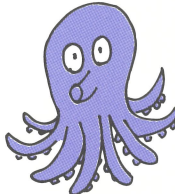
安子夫人スケッチ「子供たちと眠る実篤」
昭和4年（1929年）ころ



実篤から武者小路辰子供連あて
昭和13年11月23日

おまけに父はふざけん坊で、とても「面白い人」なのだった。（中略）「海岸をずっと歩いていくと、タコが迷児まいごになって泣いているんだ。うちへ来るかって言ったら、ついてきてね。それがタッコなんだ」などと
いうおかしな話をしてくれるので、「ウソよ、ウソよ」と大さわぎになる。それでいて、またそんな変てこなお話を何べんでも聞きたくなるのだった。

（武者小路辰子『ほくろの呼鈴』より「ほくろの呼鈴」）



実篤は仕事で旅行に出かけると、よく旅先から家族へ手紙を出しました。

この手紙は「どの丸が誰への返事か考えてもらえ」と。左ナソナソになっていきます。左上の丸には「タコタコおどりが見られないでさびしいよ」とタコのイラスト。左下の丸には「ウソクラブ」。楽しい手紙ですね。



安子夫人と仙川の家の庭で 昭和30年(1955年)ころ

何を話しているのでしょう。
二人ともとてもやさしい表情です。

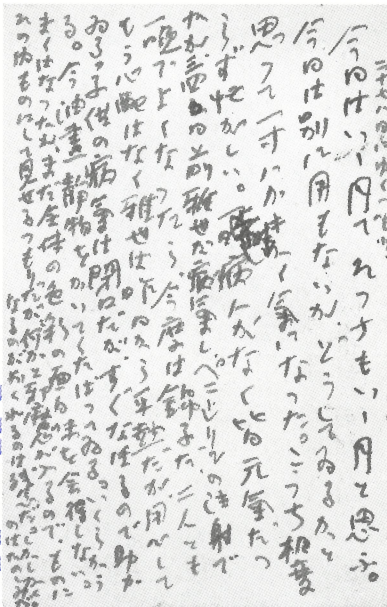


伊勢いせに行った時、その地に

いる私の夫の友人が父母に逢あい、伊勢神宮に同行した。あとでその人の話では、父が大木を見上げながら、「ママ、来てよかったね、ママ」と連発するので、すっかり感じ入ったと言うのだった。

〔武者小路辰子「ほくろの呼鈴」

より「外出スナップ」〕



実篤から安子夫人あて 昭和26年6月17日

安子夫人が病気で一時期ちりょう転地療養した時、実篤はその療養先へ手紙を出してあります。この手紙には「今日はいい月でそつちもいい月と思つ」と書いていて、安子夫人を想おもう気持ち伝わってきます。遠くはなれていても同じ月を見ているなんて、すてきですね。

あなたは
あ？

家族から手紙をもらったり、家族に手紙を書いたりしたことはありませんか？
それはどんな手紙ですか？

家族に手紙を書いてみましょう。